

第4期さいたま市外国人市民委員会 第4回委員会 会議録

令和3年6月28日（月）～7月16日（金）まで開催した、「第4期さいたま市外国人市民委員会 第4回委員会」の会議録について、以下のとおりである。

1 第4期さいたま市外国人市民委員会の提言書への意見について

「1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について」

・「1 外国人の子育て・子どもの学校生活において必要な支援について」の項目にPTA活動の部分があんまり書いてない気がします。PTAの活動に関しては外国人が参加できるマニュアルがあったらいいと思います。外国人が出来ることを教えてあげるのが大事だと思います。

私も保育園のPTAに入ったことがありました。色々な仕事の中で外国人でも出来る仕事を私に優先的に割り当ててくれたので助かりました。他にも園児のために海外の文化を教える時間として韓国の子でも歌を紹介する活動もしました。（イユジン）

・書類の多言語化について

もちろん、多言語化の書類が作成できるのであればそれがベストかもしれないが、限りある財政の中、そこだけに力を入れるのは難しい気がする。まずは英語の資料を作成して、そこから問題点があれば、随時検討していく感じでよいと思います。

あと、今は自動翻訳システムもたくさんあるので、書類のIT化を早急に行い、各外国人が翻訳にかけられる形でも良いと思います。自動翻訳システムについてはさいたま市でおすすめのを外国人に提案する形をとる。（リアンダー・ヒューズ）

・子育て支援について

PTA活動については、学校に行く前にコーディネーター・さいたま市が英語の書類でもいいので説明をした方が良くと思います。コーディネーターに関しては、地域のボランティアや埼玉大学の学生にボランティア活動を集ってみるのもいいかもしれません。（リアンダー・ヒューズ）

・外国人が日本で子育てをする際、誰よりも頼りになるのは日本人の保護者だと思います。そのため、外国人と日本人の保護者が自然に交流出来る場（例：PTAの利用、ボランティア、等）をたくさん作ると良いと思います。この内容を追加すると良いと思います。（リム・キョンヒ）

・学校から配布される書類の多言語化、外国人の子どもをサポートしてくれる環境作りの二点が大切だと思います。学校で配布する書類、ドキュメントを多言語に変換するのはできるだけ急ぐ必要があります。長期的に日本に滞在する外国人家族だけではなく、さいたま市に来る駐在員家族、ワーキング家族で子供がいる場合は、自分の子供を預かる学校で英語もしくは国際言語の書類があれば、より国際都市のイメージが出るではないかと思います。（ライ・ウダラ）

・子育て家庭への支援

日本語支援：日本語の学習、支援について特にたくさんのごところすでに行っています。これは

このままで継続すればよいと思います。価値が生まれるのは、これまでの対面授業より臨機応変に対応できるオンラインクラスにするのが良いかもしれません。(ライ・ウダラ)

・サポート役のコーディネーターの配置

これは非常に大切なことだと思います。コーディネーターと言っていますが、人選についてなるべく帰国子女のような方をお願いするのが良いと思います、その理由は、自分自身が昔海外で、外国人にもなったこと経験があり、外国人の立場で物事を考えることが可能だからです。人材確保の面でみると、コストがかかる一面がありますが、ただしこれはコストかかっても行うべき項目だと思います。(ライ・ウダラ)

・児童館の利用を外国人へ普及しましょう。児童館を使う外国人が少ないイメージがあります。児童館をよく利用すれば、外国人の子育ても楽しくなれます。たとえば、木崎にある「あいぱれっと」では、たくさんのイベントがあって、相談窓口も設置しているので、いろいろ楽しいことができますと思います。(オウ・ライ)

・外国人が日本で生活するとき、様々な問題があります。外国人が初めて日本に来るとき、分からないことは沢山ありますが、一番困っているのは、日本語です。言語ができないと、生活は大変です。彼らへの支援が必要です。

まずは、学校の中で彼らに支援する必要があります。専門の日本語先生をつける。親の仕事の原因で、日本に来る子どもは沢山います。彼らは、初めて、外国に来て、不安は沢山あります。母国語ができる先生をつけて、いつも彼らに説明することができ、不安を消します。

もう一つのタイプは、さいたま市で仕事している人です。彼らは、技術を持っていますが、日本語はあまり話しません。彼らもとても困っていると思いますので、地域自治会で定期的に、日本語教室を開催する必要があります。彼らが教室で日本語と日本文化を学ぶことで、日本での生活がもっと楽しくなります。(ラ・コウ)

・日本語支援

日本での生活をより良いものにするには『分からない、出来ない、面白くない』のスパイラルから抜け出すことが大切であると思います。またその人の周りを取り巻く人たちとの人間関係が物事を大きく左右します。学校や職場、地域の人々とうまくコミュニケーションをとるには日本語を話せることが大切になってきます。学生には、放課後に授業の補修や日本語の習得ができる場、大人には日本語を覚えながら日本での生活に必要なルールや習慣が学べる場が必要です。文化理解は近隣の住民とのトラブルを防ぐ意味でも大切になってきます。また子供の場合は、年齢によっては必要な学習内容が変わってきます、日本語の習得レベルが本人の進路に大きな影響を及ぼすからです。そして自分と同じ境遇の仲間と会える事が勇気にもつながりますので学びの場や選択肢は多くあった方が良いでしょう。日本での生活が楽しいものになれば、いつかはさいたまに来てよかった！さいたま市に住んで良かったとつながって行くと思います。(西川ナンシ)

・学校からの情報提供の多言語化について

翻訳サイトやアプリの活用の案、とても良いと思います。現場にいる先生方やスタッフに多言語での対応ができる限度があるかだと思います。その時に備えて、コミュニケーションツールあるいは翻訳アプリの紹介があれば助かると思います。例えばそのサイトにつながるQRコードが印刷さ

れた物を学校で配ったり、イベントなどで使い方を紹介するのも良いでしょう。とにかく外国人の目に留まる方法でのPRが大事です。そして実際、目の前で使って見せるのも効果的だと思います。(西川ナンシ)

・サポート役のコーディネーターの配置

外国出身の生徒さんの入学や転入があった際に、一度「生徒、保護者、教員とサポートを行うコーディネーター」の4者で初期の段階で顔合わせ面談をするのはいかがでしょうか？一度顔を合わせることでお互いに話しやすくなると思います。紙ベースのお知らせを渡されてもおそらく内容が理解できない人もいます。慣れない日本語で知らない人と連絡とったり、改めて違う場所に出向くのはハードルが高いです。本人の生活中心となる場所で初期対応ができれば、ご本人と周りにいる人の負担が減らせます。また学校だけではなく、市役所や公共の窓口などで日本語教室の案内や同じ境遇の人が集まるサークルなどの案内をして頂けるとサポートの選択肢が増えます。相談できる人、頼れる場所がいくつかあるとよりよい問題解決につながります。今おかれている環境がどうしても子供に合わない場合、相談に乗ったり、転校を一つの選択肢として提案があっても良いと思います。大人は自分で選択することができますが、子供は置かれた場所で生きていくしかありません。相談できる場所や選択肢を示してくれる人が必要です。(西川ナンシ)

「2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み」

・「2 外国人がさいたま市を訪れたいと思ってもらえるための観光の取組み」については前回の提案書に書き忘れた部分があったので追記します。大宮とか新都心など大きい駅や、観光地がある駅に観光スタッフを配置してくれると観光しに来た外国人が助かると思います、スタッフはボランティアの形でも良いと思います。通訳や道案内などのサービスが提供されると外国人が安心して観光が出来ると思います。ネットを使って色々な情報を収集することが可能となっていますが、地元の人の意見は最も信頼されると思います。(イユジン)

・すぐにできることという意味ではイベントも良いかもしれませんが、中長期的な戦略として、観光地として考えていくのであれば、イベントだけに頼ってはい今のままで終わってしまうと思います。すでに私の案は前回から出しておりますが、さらにアイデアとしては下記になります。

・埼京線高架下を有楽町のコリドー街のようにする おしゃれなレストランや有名シェフを誘致など(例えば、都内に行かなくてもハイレベルの食を楽しめる街というキャッチフレーズ)

・逆にナイトマーケットなどはB級グルメなど

・さいたま市は川が多いので、茨城の潮来川下りのようなことをする→日本文化的なので外国人は好きそう。(リアンダー・ヒューズ)

・外国人からさいたま市を訪れたいと思ってもらうためには外国人との交流も大事だと思います。そのため「(2) (ii) の箇所で、SNS を用いた交流や情報発信を多言語で積極的に行って下さい。」と変えるのはいかがでしょうか？(リム・キョンヒ)

・ホームページ、SNSについて

さいたま市及び（埼玉県）の魅力を最大限で持ち出す有効なツールは、デジタルソリューションズであると思います。HPとSNSのみではなく、より多くの会社と協力関係結び、地元企業のカも借りて、さいたま市の魅力をあらゆる面で海外へ発信することが良いと思います。（ライ・ウダラ）

・コンベンション、イベントについて：

国際的なコンベンションやイベントの誘致・開催するについてコメントしたいと思います。例えば2022年、さいたま市ワールドYEARというイベントを実施し、さいたま市の魅力を発信するため、国際交流市を12個選び、2022年に毎月その国との国際イベントを開催する。もっと若い年齢層の人たちがインターナショナルなコネクションができるように、さいたま市は国際シティーの魅力を出せるためのOne Year Projectにしていかがでしょうか？（ライ・ウダラ）

・2の(1)について、紹介以外、陶絵体験などのイベントをやって、外国人向けのスペースを作って、交流しやすい場所を作りましょう。（オウ・ライ）

・2の(2)について、各国の人の体験感も見えるなら、より良いと思います。（オウ・ライ）

・2の(3)について、具体例として、さいたまスーパーアリーナ、埼玉(さいたま)スタジアム2002を見学のイベントを使います。ミニオリンピックを行って、オリンピックの雰囲気を感じます。（オウ・ライ）

・(1)文化体験の紹介

コロナ禍で対面式のイベント開催が難しくなっている今、オンラインでのイベントが増えています。ただオンラインだと参加者のタイプが一部の人に限定されてしまう事が多いので、立ち寄りついでに他の物も見て頂くような仕掛けや発表者を一部の限られたプロだけに限定するのではなくお祭り感覚でたくさんの方がアピールできる場が出来たら良いなと思います。もちろん主催側の内容の精査が必要になりますが、その後に期間限定で写真あるいは簡単なメッセージを掲載するのも面白いでしょう。例えば、『埼玉の魅力』をテーマに外国人や地域の人たちが撮影した“あなたの自慢の1枚”を紹介！のコーナーなど。またそこに外国人が参加している体験型のイベント写真を載せれば、文化体験の紹介にもつながっていくと思います。（西川ナンシ）

・(3)コンベンション、イベントについて

さいたまスーパーアリーナや埼玉スタジアム2002でのイベント誘致・開催の提案はとても良いと思います。国際的なイベントも凄く良いですし、埼玉県内のスイーツのイベントも面白いと思います。より多くの人を呼び込むには地域の人たちを巻き込むのも良いと思います。例えば、近隣の学校の生徒たちが世界の国々を調べた展示物を会場に飾るなど。（西川ナンシ）

・さいたま市ナイトマーケットに関して

武蔵浦和駅から別所沼公園の間に遊歩道がありますが、似たような遊歩道は、たくさんあると思います。そこを利用して昼間・夜間に関わらず、休日など人が集まりやすい日に 各国の留学生・在留者によって、その国の文化・民芸品・料理を提供する場を作る。その活動費の支援をしてはいかがでしょうか？（ゴンザレス・アドリアナ）